

平成31年3月定例会

# 市長説明要旨

平成31年2月28日

山 鹿 市

本日、ここに、平成31年3月定例会を招集しましたところ、議員各位におかれましては、ご多用の中、ご出席を賜り厚くお礼を申し上げます。

本定例会においてご審議いただきます諸議案の説明に先立ちまして、平成31年度の市政運営に関する私の所信を申し上げ、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

## ■日本経済と国の動向

日本経済は、政府が1月に発表した月例経済報告において、「景気は、緩やかに回復しており、先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される」との見方が示されております。

県内の経済情勢も「緩やかに回復している」とされ、昨年11月の有効求人倍率が、全国平均を上回る1.65倍となり、住宅建設に関しては、「回復している」との判断がなされています。これらは、活発な生産活動の下、景気が回復傾向にあることの表れであると思えます。

こうした中、政府は、「経済財政運営と改革の基本方針2018」において、少子高齢化の克服による持続可能な成長経路の実現に向け、

「人づくり革命、生産性革命の実現と拡大」、「働き方改革の推進」、  
「地方創生の推進」、「安全で安心な暮らしの実現」などに重点的に取  
り組むこととしています。また、10月には、「全世代型社会保障制  
度」の実現と安定的な税財源確保のため、消費税率が引き上げられる  
ことになっていますが、これに伴う需要変動への対策も併せて講じ  
られることになっております。

## ■市政運営方針

それでは、「平成31年度における市政運営の基本的な方針」につ  
いてご説明いたします。

昨年は、「第2次山鹿市総合計画前期基本計画」及び「山鹿市総合  
戦略」に基づく各施策が着実に前進したと考えておりますが、中でも、  
中核的な施策である「菊鹿ワイナリー構想」、「新シルク蚕業構想」、  
「山鹿灯籠ジャパブランド構想」が、目に見える形になってその姿  
を現した年となりました。

平成31年度は、これら3つの戦略創造プロジェクトと菊池川流  
域日本遺産の取組を合わせた「スリープラスワン」をさらに磨き上げ、  
新たな段階へ引き上げることで、これらが一層輝く年にしたいと考  
えております。

また、女子ハンドボール世界選手権大会やインターハイの開催、NHK 大河ドラマ「いだてん」の放送など、スポーツと歴史文化による交流人口拡大の追い風をしっかりと受け止め、関係自治体とも連携を強化しながら、まちの賑わいに繋げてまいります。

引き続き、市政の各分野に目配りをしながら、本市の将来都市像である「人輝き飛躍する都市 やまが」の実現に全力で取り組む所存でございます。

## ■ 予算編成の考え方

続きまして、平成31年度の予算編成方針について、ご説明申し上げます。

本市では、普通交付税の段階的縮減と生産年齢人口の減少に伴う税収の減少が今後見込まれることから、一般財源の確保がますます厳しくなる一方、高齢化の進行等により社会保障関係費が増加するとともに、老朽化が進む公共施設や公共インフラの維持・更新費用の増加や合併後の社会資本整備に充てた地方債の償還もあり、厳しい財政運営が続く状況にあります。

しかし、人口減少や過疎化といった本市が抱える構造的な課題に対しても真正面から向き合い、引き続き、地域に希望と活力を与え

続け、住民の心の豊かさ・満足度の最大化を目指してまいります。

このような考えの下、限られた財源の「選択と集中」並びに事業執行の効率化を徹底した予算編成により、平成31年度の一般会計予算の総額は、284億7,500万円となり、これに8特別会計と3企業会計を合わせますと、純計で473億8,425万円となっております。

#### ■平成31年度に重点的に取り組む施策

それでは、ただ今申し上げました予算編成方針に基づき、「3本の柱」ごとに重点的に取り組む施策の概要について、ご説明いたします。

まず、第1の柱「人を創る」についてであります。

幼児期から学齢期における子どもたちの「志」を育て、「生き抜く力」を育むために、学校・家庭・地域が一体となった取組を深化させることで、社会全体の教育力の向上を目指すとともに、子どもたちを育む環境の整備を着実に進めていきます。

また、学校規模適正化計画及び公立保育園・幼稚園再編整備計画に基づく教育保育施設の統廃合、民営化を進めてまいります。

## ① 子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実

通常学級及び特別支援学級に在籍する障がいのある児童生徒や、不登校気味の児童生徒に対して、個々の状況に応じた適切な指導・支援を行うためのサポートティーチャーを増員配置することを通じて、子ども達によりきめ細かな支援を行うとともに、教職員の負担を軽減し、子どもたちと向き合う時間に振り分けることで、不登校対策やいじめの未然防止・早期発見に向けた取組を強化してまいります。

## ② 学校規模適正化事業

少子化が進む中で、児童生徒が適正な教育環境で学校生活を送ることができるよう、「学校規模適正化基本計画第2次計画」に基づき、学校の再編を図ってまいります。平成31年度は、翌年度の4月開校を目指す鹿本小学校の施設整備を進めてまいります。

次に、第2の柱「経済を創る」についてであります。

基幹産業である農林業の活性化のため、「収益性の高い農林業」の実現を目指し、将来にわたり地域農業を支える担い手の育成、農地集積・集約化の推進、基盤整備の推進などの施策を積極的に進めてまいります。

す。また、日本型直接支払い制度等を有効活用し、農業・農村の多面的機能の維持・強化を図ってまいります。

さらに、商工及び観光振興面では、山鹿の地に域外から「ひと」・「カネ」・「モノ」・「情報」を呼び込み好循環させるため、福岡都市圏を最重点地域に位置づけ、これまで磨き上げてきた地域資源を活用して、商工・観光事業者など多様な関係者の連携協同による儲かる仕組みづくりを進めてまいります。

#### ① 農業担い手支援総合対策事業

農業就業人口の減少や高齢化により、本市農業の担い手不足が懸念される中で、新規就農者の確保・定着化や集落営農組織の育成及び認定農業者や農業法人等の経営の基盤強化を図る施策を展開するとともに、農地集積・集約化を進めることで効率的な地域農業の維持・発展を目指してまいります。

#### ② 農産物生産振興事業

効率的で生産性の高い農業の実現を図るため、国や県の事業を活用し、労力の低減及び作業効率を高める機械やコストの低減及び生産性を高める設備等の導入を支援してまいります。また、地域の特性を生かし

た高品質な農産物の生産及び特産品の振興に対する取組を支援することで、高付加価値化による売れる山鹿の農産物を確立し、農業者の生産意欲の向上とともに、足腰の強い農業経営による収益性を高めた産地化を目指してまいります。

### ③ 観光戦略プロモーションの推進

福岡都市圏を最重点地域と位置づけたうえで、観光ニーズの把握と受入態勢の質の向上、効果的な情報発信といった誘客促進に努めるとともに、山鹿灯籠、菊鹿ワイナリーを始め、日本遺産などの観光資源を活かし、市内を周遊する仕組みを構築してまいります。このことにより、福岡都市圏からの観光客をさらに増加させ、滞在時間の延長を通じた宿泊者と消費額の増加、リピーターの獲得につなげてまいります。

### ④ 観光客受入態勢の充実

受入環境の整備・充実を図るため、宿泊施設の魅力充実及びおもてなしの向上に取り組む事業者を後押ししてまいります。

また、2次交通アクセスの強化対策として、平成30年度から熊本県及び県北地域4市町で取り組んでいる「阿蘇くまもと空港」からの無料シャトルバスの試験運行に加え、新たに福岡都市圏からの誘客を図るため、久

留米から「山鹿・平山温泉」まで、直行(高速)バスの試験運行を開始いたします。

最後に、第3の柱「住み続けたいまちを創る」についてであります。

市民誰もが住み慣れた地域で生き生きと、自分らしく暮らし続けられるまちづくりに向けて、高齢者や障がい者が活躍できる機会・場の創出や健康・医療・福祉・介護の各分野の連携を図るとともに、住まいや地域づくり、働き方の改革に産学官民が一体となって取り組む体制を整備してまいります。

また、地域コミュニティの維持のため、引き続き、住民自らが主体的に行う地域づくり活動を支援し、活力ある地域づくりを進めてまいります。

### ① 健康づくり推進事業

本市では、従来からライフステージに応じた健康診断の実施や受診勧奨を行うことにより、疾病、特に生活習慣病の早期発見・早期治療・重症化予防に取り組んでまいりました。

これを踏まえ、本事業では、「市民歩こう運動」の前進をはじめ、特に健康や運動無関心層をターゲットに、健康づくりのための運動や生活習慣の動機づけ及び定着化の取組により、市民一人ひとりが「自分の健康

は自分で守る、創る」という意識の変革を図ってまいります。

これにより、検診の受診率の向上、健康づくり習慣の定着化、ひいては、健康寿命の延伸、医療費の抑制につなげてまいります。

## ② 移住定住促進事業

市外在住の方に移住・定住の地として、山鹿市を選択してもらえよう都市部で開催される移住相談会へ参加したり、菊池川流域4市町合同で魅力ある情報の発信や受入環境づくりを継続して行ってまいります。

また、「お試し住宅」や「お試し滞在支援」により、本市の地域特性、日常の暮らし及び集落活動等を実際に体験し体感してもらうことで、具体的な生活のイメージを持っていただき、円滑な移住に繋げてまいります。

さらに、空き家バンクの充実を図り、空き家バンクを活用した改修費補助による住環境整備の支援や三世帯同居住宅支援を行ってまいります。

加えて、「移住体験ツアー」を開催し、移住希望者が、先輩移住者や地域住民との交流を通じて、移住定住の意思を確かなものにできるよう、強く後押ししてまいります。

こうした取組の相乗効果により、市外からの新しい人の流れをつくり、特に、若い世代の定着を目指してまいります。

## ■その他の重要事業

以上、3つの重点施策のほかに、以下の重要事業にも取り組んでまいります。

○11月30日から山鹿市を含む5会場で開催される「女子ハンドボール世界選手権大会」は、世界最高レベルの試合を観戦できる絶好の機会です。そのため、市民に夢と感動を与え、“ハンドボールの街やまが”の名に相応しい大会となるよう、全力で取り組んでまいります。

○熊本地震を踏まえ、防災拠点となる消防署所の耐震化に向けて、老朽化が進んでいる鹿北分署の整備に着手します。これにより鹿北地域の安全・安心な暮らしと消防機能の更なる充実強化を実現してまいります。

○森林環境譲与税の創設に伴い、森林経営計画未策定箇所の森林所有者への意向調査や説明会を実施し、その意向調査の内容を踏まえ、森林所有者や境界の明確化、未整備森林の整備に取り組み、森林の適正管理と林業の成長産業化を進めてまいります。

○上がり灯籠が奉納される大宮神社の参道でもある市道の舗装整備に合わせ、市民が歩きやすい空間を確保することにより、大宮神社と上がり灯籠が織り成す歴史的風致の維持向上と交通の安全に努めてまいります。

## ■結びに

以上、平成31年度の市政運営や予算編成に当たっての、私の基本的な考え方と施策の概要について申し上げます。

さて、4月1日には、永年の懸案でありました山鹿市環境センターが、地元住民の皆様をはじめ、関係者の皆様方のご理解とご協力により、本格稼働いたします。今後、市民生活に不可欠な施設として、安全で効率的かつ安定的なごみの焼却処理に努めてまいります。

また、同日には、鹿本幼稚園と幼慈園を統合した、県下初の公立認定こども園である「鹿本こども園」が開園いたします。就学前の子どもに教育と保育を一体的に提供することで、多様化する保護者のニーズに応えることができるものと考えております。

本日から16日間にわたりご審議いただきます議案は、条例47件、予算16件、財産の譲渡及び貸付け10件、市道路線の認定1件、人事案件16件、その他1件の計91件でございます。これらの諸議案の内容につきましては、担当職員が説明いたしますので、ご審議のうえ、何卒ご議決を賜りますようお願い申し上げます。